

す た で い

# 須田 dy

(ふるさと・須田学習)

## 須田 dy(故郷学習)とは

「何のために学習しているのか？」への答えは様々です。しかし、各教科学習で身に付けた学力を、友だちと出し合い、身近な生活に生かすことを体験することも、その答えの一つになります。それが、**グラントデザインに挙げた「須田 dy 科 (すた で い か) (ふるさと・須田学習)」**のねらいです。低学年は生活科の時間、中学年以上は総合的な学習の時間を使います。

各学年の学習テーマを基に、**【調べる】** **【編集する】** **【発信する】** の3つの学習活動を大切に指導します。

### 【調べる】では

探検、インタビューや書籍などから必要な情報を引き出す力を。

**【編集する】では**  
(各教科学習で身に付けた学力を、意識して活用する場面づくり)

集めた情報を、自分たちに伝わるための、複数の根拠を

(伝えたいことが、相手に伝わるための、複数の根拠を)

**【発信する】では**

だれに・なにを・どのように伝えるのか、相手意識をもって形 (ポスター、カレンダー、劇など) にまとめ、外部に向けて発信する力を。

(分かったことが、相手に伝わるための表現の工夫)

### <<各学年の須田dy科のテーマ>>

1年: だいすき すただんけん

3年: 宣伝します! 須田ブランド梨

5年: 発信! これからの須田米づくり

2年: 須田すてき たんけんたい

4年: 須田を豊かに! 信濃川とともに

6年: 対話の力! 加茂軍議から知恵探し

### ■ 「お陰様」と「お返し」の“縦軸思考”を育てる「須田 dy」

自分の住む「ふるさと」の姿は、先人や周りの人たちのたゆまぬ努力によって、維持・発展してきた結果であり (お陰様で)、「ふるさと」をよりよい未来につなげていくために、今何ができるか考え行動 (お返し) することに、「ふるさと」を学ぶ意味や価値があります。別の言い方をすれば、「過去・現在・未来」の時間軸で物事を考える“縦軸思考”を育てることにつきます。そして、それは、自分の成長を見つめることにもつながります。他の人や、他の物、他の場所と単純に比べて、一喜一憂する”横軸思考”を超えるものです。

### ■ キラキラ・ヒーローが、すぐ横に!

各教科学習で身に付けた知識や考え方を合わせ使う場面を意図的に作り、自分の生活を振り返ります。メディアの登場するキラキラ輝くヒーローのように、安全で過ごしやすい生活を支えているヒーローたちが、すぐ横にいることを再発見する学習です。須田にある施設で働く人、水から須田を守った人、そして、その水と須田の土から果物や米を生み出した名人など。つまり、「どこか」ではなくて、「ここ」にいるヒーロー探しとも言えるかもしれません。

小学校6年間の学習のまとめの6年生のテーマは、「加茂軍議」から学ぶ「対話の知恵」です。日本が2つに分かれて戦った「戊辰戦争」の分岐点「加茂軍議」の劇づくりを通して、当時の人たちの感じ方や考え方との違いを意識しつつ、自分の中に「ヒーロー」(問題を解決するための対話の知恵をもてる人) を作ることに挑戦します。

